

# かみまち地域支え合い



ドラマや映画などでも取り上げられることが増え、身近に浸透してきた手話。「手話サークルたんぽぽ」の勉強会には、手話に関心のある方々が町内外、世代等を問わず集まって、手話でのおしゃべりを楽しんでいます。

見学等は自由ですので、ぜひご参加ください！

【手話サークルたんぽぽ】

活動日：①第2・第4木曜日 10時～12時

②第1・第3土曜日 19時～21時

場 所：中新田公民館

第9号

2024.5



# 生活支援コーディネーターと民生委員さんが加美町の 一人暮らし高齢者のみなさんにお聞きしたこと

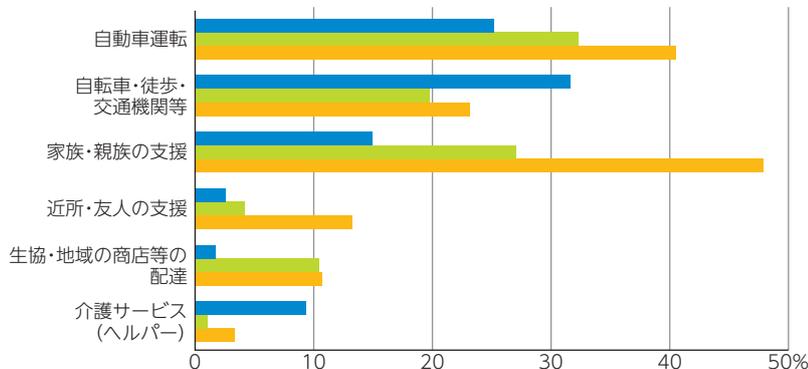
生活支援体制整備事業の一環として令和5年7月から12月にかけて、生活支援コーディネーターが民生委員さんと一緒に71歳以上の一人暮らし高齢者世帯を訪問しました。その中で見えてきた一人暮らし高齢者のみなさんの現状をご紹介します。



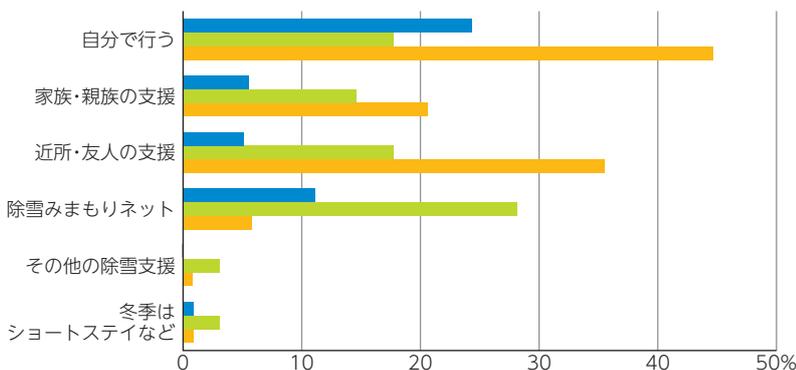
1層協議体に  
報告しました



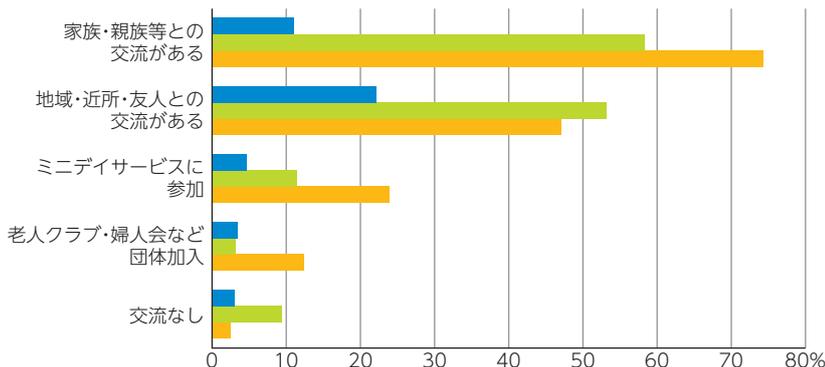
## 『買い物』はどうしているか



## 『除雪』はどうしているか



## 『交流』はどうしているか



### 《中新田地区》

- 買い物に困っているという声はほとんどなかった。
- 除雪みまもりネット（行政区内での支援）が浸透し、以前に比べて困っているという声が少なくなってきている。
- 比較的健康で自立できている方が多い。

### 《小野田地区》

- 買い物の手段が乏しいため高齢になっても運転免許を返納する人が少ない。
- 除雪みまもりネットの普及率が年々上がってきている。
- コロナ禍の影響もあってか、ミニデイが少なく、隣近所同士など小規模の交流が多い。

### 《宮崎地区》

- 買い物に関しては「家族・親族等の支援」の割合が最も多いが、①近所に商店がない②交通機関の選択肢も少ないことが影響している。
- 除雪は「近所・友人等の支援」が充実している。
- 「地域・近所・友人との交流がある」がおおよそ2人に1人で、何かしら地域とのつながりをもっている人が多い。

## 生活支援体制整備事業第1層協議体

『地域で支え合いながら生活していくためには…』

第1層協議体では、高齢者の皆さんが住み慣れた地域で、安心して暮らしていくために大切なこと、必要なことは何なのか、ずっと話し合ってきました。令和5年度は「買い物」、「除雪」、「交流」の3つの項目について、一人暮らし高齢者世帯を訪問し、お聞きしてきました。結果は右ページのグラフのとおりです。

「買い物」について、宮崎地区では確かに商店が少なくなっていますが、家族や近隣等の協力もあって、何とか生活が成り立っている様子が分かりました。「除雪」については、近隣住民の助け合いで雪かきをする「除雪みまもりネット事業」を行う行政区が増えてきたことで、除雪問題がある程度解消してきたことも分かりました。

「交流」に関しては、家族や地域等との一定程度の付き合いや交流があると分かりました。しかし、グラフ等には反映されていませんが、訪問先では「誰かと話しをしたい」「話し相手が欲しい」という声をたくさん聞きました。

協議体では、これらの課題を解決するためにも、地域における活動を活性化させるとともに、ご近所同士のゆるやかな「見守りの目」を育て、増やしていくことの必要性を再確認しました。今後もさらにそのための具体策を話し合っていきたいと思います。



## 寄稿 おらほのボランティア活動

東鹿原地区のボランティア活動は、これまではサンホームのシーツ交換や清掃作業のほか、地域のミニデイ活動となっております。令和5年度は、コロナやインフルエンザ等の感染症の影響でサンホーム関係の活動はできませんでした。

そのため、東鹿原ボランティア友の会では令和6年2月28日に鹿原公民館及び東鹿原集会所の障子張替え作業をいたしました。また、ミニデイ活動（お茶っこ飲み会）では、ひなまつり会・七夕会・運動会等々を高齢者の方々と楽しく過ごすことができました。

4月からは「鹿原公民館」が「鹿原地区地域づくりセンター」と施設の名称が変わります。鹿原地区の若者達が地域の活性化のために元気に活動しているところです。鹿原の地域がこれからますます発展できるように、ボランティア友の会としても協力できればよいなと思っております。

（文：東鹿原ボランティア 早坂喜江子さん）





# 一日のスタートは笑いから

## 宮崎・根岸行政区



左から、高橋さん、奥津さん、中沢さん、小林さん、柳川さん

「ワッハッハ」朝から笑い声が響きます。

そこは宮崎・根岸行政区の中沢清夫さんが所有する牛舎の一角。笑い声の主は根岸粗飼料生産組合のメンバーである男性5人です。

組合長の奥津さんをはじめ、みなさん曜日に関係なく毎朝、農作業等の「打合せ」のため、ここへ集まるのが日課になっているとのこと。

毎朝、午前6時40分から8時頃まで、缶コーヒーを飲みながら、打合せ以外にも色々と雑談するのが定番のスタイル。なんと、この「打合せ」10年以上も続いているそうです。

最初は農作業の打合せや、地域の話し合いからスタートしたものが、世間話を重ねるうちに、いつしか毎日顔を会わす関係性になっていったのだとか。

「2日間無断欠席をすると連絡がくんだあ」

「自分を気にかけてくれる仲間に出会えるしな。いい場所なんだよ」

地域のために話し合うことがきっかけで始まった「打合せ」は、今ではみなさんの生活の一部となり、かけがえのない時間となっていました。

「こいなぐして（こういうふうにして）集まんのはいいごどだどな！」と、みなさんが屈託のない笑顔で話されていた様子がとても印象的でした。

一日のスタートは笑いから。男たちの素敵な隠れ家で、今日も朝から笑い声が響いていることでしょう。



牛舎の一角が集合場所です



ワッハッハ。絶えず“笑い”が飛び交います



発行日：2024年5月1日 発行：社会福祉法人加美町社会福祉協議会  
〒981-4261 宮城県加美郡加美町字町裏320番地（中新田福祉センター内）  
TEL:0229(63)2547 FAX:0229(63)2898 URL:<http://www.shakyo.or.jp/hp/288/>

※この広報紙は加美町生活支援コーディネーター業務委託に基づき発行しています。

